

★ 斑点米カメムシ類 情報

斑点米カメムシ類については7月25日付け病虫害発生予報第6号(8月)で、「**予想発生量：平年比やや多い**」として発表しています。特に、**畦畔雑草の管理が不十分なほ場で発生量が多くなっています**ので、今後の発生に十分注意し、防除指導をお願いします。

● 水田内での発生量

7月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、確認地点率・平均虫数は府全体で10.0%・0.1頭であり、平年に比べてやや少ない発生でした。府内各地の水田内における発生状況は表1のとおりです。発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシでした。

● 畦畔雑草での発生量

7月中旬に行った畦畔雑草すくい取り調査の結果、確認地点率・平均虫数は府全体で53.3%・12.9頭であり、**平年に比べて多い発生でした**。府内各地の畦畔雑草における発生状況は表2のとおりです。主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシでした。

● 予察灯への飛来数

予察灯での誘殺数(7月第1半旬～第4半旬までの4半旬の合計値)は、アカスジカスミカメが亀岡市で39頭(平年：29.9頭)、京丹後市弥栄町で59頭(平年：54.1頭)と、平年に比べやや多い値になっています。また、アカヒゲホソミドリカスミカメは亀岡市で10頭(平年：23.3頭)、京丹後市弥栄町で23頭(平年：47.8頭)と平年並の値になっています。

今後、写真のようなカメムシ類が雑草地等で増殖し、出穂後の水田に侵入することが懸念されます。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



トゲシラホシカメムシ



クモヘリカメムシ



ミナミアオカメムシ

表1 斑点米カメムシ類の調査結果（7月中旬 本田20回振りすくい取り）単位：％、頭

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率	平均 虫数								
23年	10.0	0.1	16.7	0.2	0.0	0.0	16.7	0.1	11.1	0.1
平年	15.4	0.3	17.6	0.3	15.2	0.3	23.4	0.5	9.2	0.1
22年	13.3	0.2	16.7	0.2	11.1	0.1	16.7	0.7	11.1	0.1
21年	16.7	0.3	16.7	0.2	11.1	0.3	16.7	0.2	22.2	0.3
20年	20.6	0.5	28.6	0.4	20.0	1.0	28.6	0.3	10.0	0.1
19年	20.6	0.2	28.6	0.3	0.0	0.0	42.9	0.6	20.0	0.2

表2 斑点米カメムシ類の調査結果（7月中旬 畦畔20回振りすくい取り）単位：％、頭

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率	平均 虫数								
23年	53.3	12.9	83.3	39.0	11.1	0.2	50.0	6.0	77.8	12.7
平年	47.8	5.3	65.2	10.5	47.7	4.4	48.1	2.9	35.8	4.3
22年	43.3	3.6	66.7	11.7	33.3	2.3	16.7	0.3	55.5	1.7
21年	46.7	4.1	100.0	14.3	33.3	1.3	50.0	1.5	22.2	1.9
20年	41.2	6.5	57.1	13.3	50.0	10.8	57.1	2.9	10.0	0.1
19年	41.2	2.6	42.9	3.1	40.0	1.2	57.1	6.9	30.0	0.5

防除上の注意事項

●耕種的防除

水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには畦畔の草刈りが有効です。しかし、出穂期に近づきすぎてから行くと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となります。そのため、**必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませてください。**

現在、カメムシ類の発生が少ない地域でも、雑草管理には十分注意してください。水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草してください。

適期に草刈り等を行うことで斑点米の発生を抑えてください。

●農薬による防除

斑点米の発生を減らす観点からは、カメムシ類を対象とした薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望まれます。

粒剤を使用する場合は、各薬剤の散布適期を確認してください。

散布に当たっては周辺作物に飛散しないよう十分注意してください。

農薬の選択に当たっては農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用してください。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）。

●要注意種

平成22年10月に山城地域で確認したミナミアオカメムシは、他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなるので注意してください。

なお、詳細については平成22年11月16日付の発生予察特殊報第2号を参照してください。